

IV 臨床心理学研究科

< 修士課程 >

1 2024年度教育課程表

2 学位授与へのプロセス

3 臨床心理学専攻の実習計画について

1. 2024年度教育課程表

臨床心理学専攻 修士課程 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
臨床心理学領域							
臨床心理学特論Ⅰ	講義	②				風間雅江	(※)
						澤聡一	
臨床心理学特論Ⅱ	講義		②			河村麻果	(※)
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	講義	②				澤聡一	(※)
						飯田昭人	
臨床心理面接特論Ⅱ	講義		②			新川貴紀	(※)
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	講義				2	河岸由里子	集中講義
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2				龍島秀広	
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2				田中康雄	集中講義
心身医学特論	講義		2			小林一彦	
障害者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	講義	2				風間雅江	
心理療法特論	講義	2				入江智也	隔年開講 (※)
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	講義				2	山谷敬三郎	
コミュニティ心理学特論	講義			2		小坂守孝	隔年開講 (※)
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義		2			小坂守孝	
心の健康教育に関する理論と実践	講義		2			澤聡一	
基礎心理学領域							
心理学研究法特論	講義	2				入江智也	
						河村麻果	
認知心理学特論	講義	2				阿部純一	隔年開講
生理心理学特論	講義			2		宇野英樹	隔年開講
発達心理学特論	講義	2				川俣智路	
社会心理学特論	講義		2			栗林克匡	隔年開講
演習							
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習		②			新川貴紀	(※)
						澤聡一	
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	②				入江智也	一部集中講義 (※)
						飯田昭人	

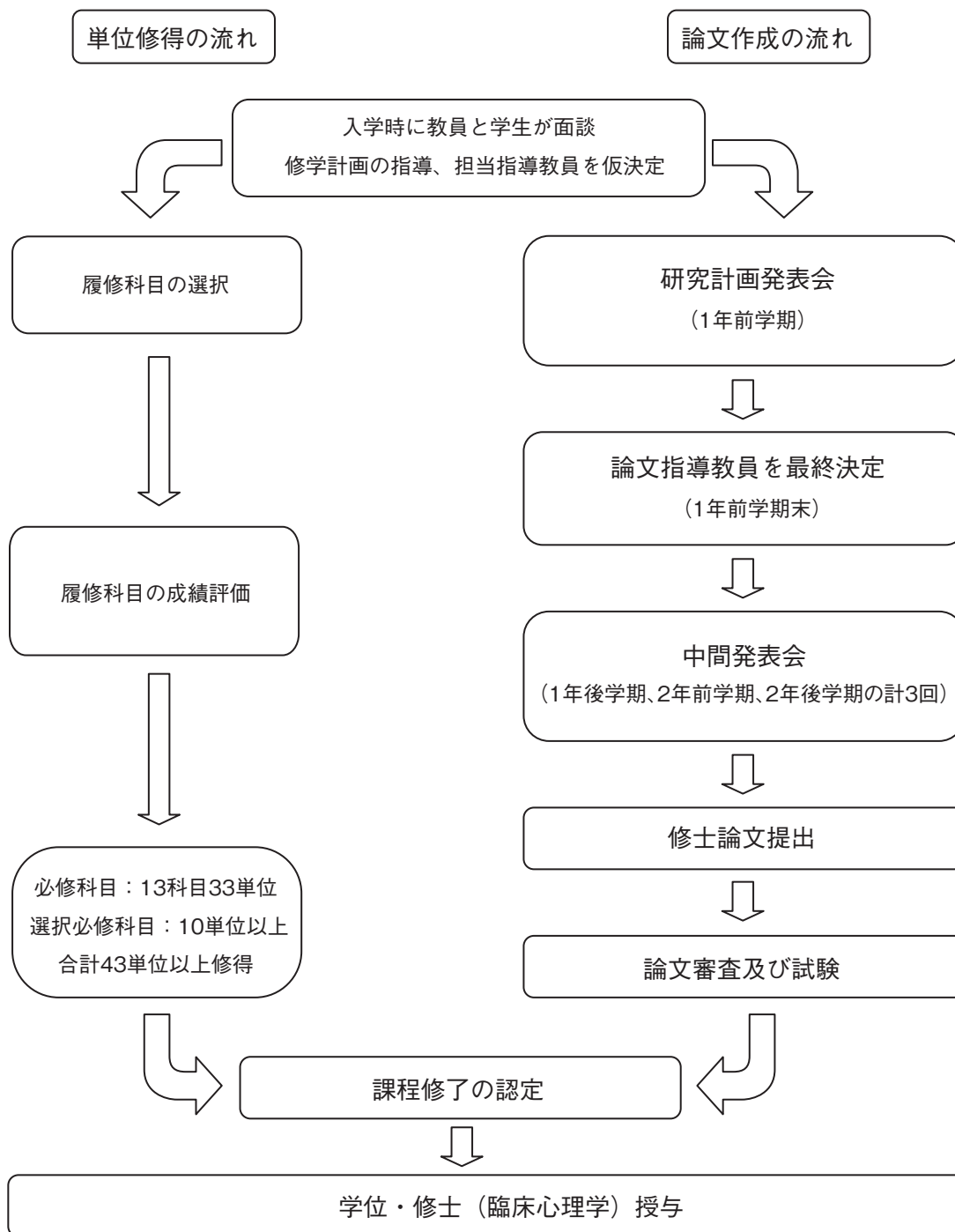
科目名	授業形態	年次・単位数				教員名	備考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
心理学特別演習	演習	←4→				小坂守孝 飯田昭人 入江智也 風間雅江 河村麻果 澤聡一 新川貴紀 村瀬嘉代子	
実習							
臨床心理基礎実習	実習	←②→				新川貴紀 飯田昭人 入江智也 風間雅江 河村麻果 小坂守孝 澤聡一	事前事後指導を含む 一部集中講義 (※)
心理実践実習Ⅰ	実習	←④→				風間雅江 飯田昭人 入江智也 河村麻果 小坂守孝 澤聡一 新川貴紀	事前事後指導を含む 集中講義 (※)
臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)	実習			←⑧→		風間雅江 飯田昭人 入江智也 河村麻果 小坂守孝 澤聡一 新川貴紀	事前事後指導を含む 一部集中講義
臨床心理実習Ⅱ	実習			←①→		小坂守孝 飯田昭人 入江智也 風間雅江 河村麻果 澤聡一 新川貴紀 斉藤美香 谷中みゆき	一部集中講義 (※)

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1年次		2年次			
		前	後	前	後		
研究指導							
修 士 論 文 指 導 I	演習		②			飯 田 昭 人	集中講義
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						河 村 麻 果	
						小 坂 守 孝	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	
修 士 論 文 指 導 II	演習			②		飯 田 昭 人	集中講義
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						河 村 麻 果	
						小 坂 守 孝	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	
修 士 論 文 指 導 III	演習				②	飯 田 昭 人	集中講義
						入 江 智 也	
						風 間 雅 江	
						河 村 麻 果	
						小 坂 守 孝	
						澤 聡 一	
						新 川 貴 紀	

(※)：日本臨床心理士資格認定協会が定める臨床心理士養成指定科目の受講制限により、上記資格の養成指定を受けた臨床心理学専攻以外の方は受講できません。また他の科目についても、国家資格公認心理師の指定科目等として受講制限が設けられている科目があります。

2. 学位授与へのプロセス

① 臨床心理学研究科臨床心理学専攻



3. 臨床心理学専攻の実習計画について

臨床心理学研究科臨床心理学専攻は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する臨床心理士養成大学院の第1種指定大学院であり、「臨床心理士」の受験資格を取得することができる。加えて、国家資格「公認心理師」の受験資格を取得するうえで必要な大学院の指定科目を設置し、本専攻入学前に出身大学等において省令で定める科目を履修済で、本学大学院の履修規程に則った科目を本専攻で履修した場合に、公認心理師受験資格を取得することができる。

心理臨床の実務を学ぶためには、実習科目における細やかな指導のもと、臨床の実践体験を積み重ねながら洞察を深めることが必要不可欠である。本専攻では、臨床心理士ならびに公認心理師の受験資格を得る上で必要な実習科目として、1年次は「臨床心理基礎実習」(臨床心理士指定科目) および「心理実践実習Ⅰ」(公認心理師指定科目)、2年次は「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)」(臨床心理士・公認心理師指定科目) および「臨床心理実習Ⅱ」(臨床心理士指定科目)を設置し、これら全てを必修科目としている。詳細は実習要綱に記すが、以下に各実習科目の概要を示す。

1) 臨床心理基礎実習

①意義と目的

本実習では、心理臨床活動を行う上で必要な基本的な態度と、臨床心理学の理論と知識、および心理的支援の技能を修得するとともに、心理的支援の現場への参加観察ならびに指導による実践を通して、心理臨床の実際を体験することを目的とする。

②展開方法・実習内容・実習施設

1年次通年科目であり、前・後学期それぞれ45時間、合計90時間を基準とするが、基準時間を上回って行われることがある。

前学期は、本学大学院臨床心理学研究科附属臨床心理センター（以下、センター）におけるオリエンテーション、ロールプレイによる実技指導、インテーク面接実習、SST実習、CBT実習、集団療法実習、ケーススタディ、および学外実習にむけた事前指導等を行う。本実習を含む臨床心理士指定科目の心理面接の基礎的技術の指導は、臨床心理士有資格者の教員が複数体制で行う。

後学期は、センターおよび教育分野等の学外実習施設において実習を行う。センターにおける実習は、実習に適切と思われるクライアントのインテークまたは継続面接への陪席等を行う。学外施設での実習は最低30時間として行う。さらに、実習終了後に事後指導の一環として本実習科目における実習体験の発表報告会、およびケースカンファレンスにも参加する。

2) 心理実践実習Ⅰ

①意義と目的

本実習では、保健医療、福祉、司法・犯罪の各分野、および、センターにおける心理臨床活動の実践、陪席、見学等を通して体験的に心理的支援の実際を学ぶ。本実習を通して、心理的支援を必要とする人に対するコミュニケーション、心理検査を含む心理査定、心理面接、地域支援等に関する知識と技能を修得することをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人と関係者の理解とニーズの把握、支援計画の作成、各分野におけるチームアプローチ、多職種連携および地域連携、心理職としての職業倫理および法的義務について学ぶ。

②展開方法・実習内容・実習施設

1年次通年科目であり、学外実習施設として、精神科病院、児童養護施設、少年鑑別所、少年院等の施設で実習を行う（実習施設は変更する場合がある）。学外実習の合計時間は最低36時間で、実習施設によって基準を上回って行われることがある。学内実習施設として、センターにおいて担当ケースにかかわる実習を最低100時間行う。学外の実習について実習報告会での発表、

センターのケースカンファレンスへの参加ならびに発表を最低14時間行う。また、センターが行う地域貢献事業やグループアプローチ等にも参加し、地域の相談拠点としての役割を学ぶ。学内外の実習の合計時間は最低150時間である。学内外の実習施設の担当ケースに関する実習を通して、担当教員および学外実習指導者の指導のもと、さまざまな臨床心理学的アプローチにおけるコミュニケーションの技能、心理査定および心理療法の実践技能を幅広く修得する。

3) 臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)

①意義と目的

本実習では、1年次の実習で学んだことを基礎として、公認心理師ならびに臨床心理士として活動を行う上で必要な態度および技法を修得することを目的とする。保健医療分野の学外実習施設およびセンターにおいて、実習施設の指導者および実習担当教員による指導のもと、継続的に心理面接、心理査定、集団心理療法等の心理臨床活動の実際を体験し、心理臨床の素養を確かなものにすることをめざす。さらに、心理的支援を必要とする人ならびにその関係者の理解とニーズの把握、および支援計画の作成等について実践的に学ぶ。学内外の実習施設で担当ケースを継続的に担当するプロセスにおいて、ケース・フォーミュレーションに取り組み、クライアントをより深く理解し、有効な心理的支援の方法を精査するための検討を行う。医療機関におけるチームアプローチや、各機関における多職種連携および地域連携について実践場面から学ぶ。一連の活動のなかで、公認心理師および臨床心理士としての職業倫理、公認心理師の法的義務についての理解を深める。

②展開方法・実習内容・実習施設

2年次通年科目であり、保健医療分野の学外実習施設として、精神科病院、総合病院、精神科クリニック等のいずれか1か所の医療機関において60時間、学内実習施設として、センターにおいて240時間、合計300時間を基準として、ケースに関する実習を行う。ただし、実習施設によって基準を上回って行われることがある。上記の時間には、事前・事後指導、実習報告会、ケースカンファレンスへの参加発表を含む。また上記以外で、指導教員の学内外での心理臨床実践に参加する場合もある。

事前指導は、実習施設での実習の準備として、1年次の実習体験をふまえつつ、ロールプレイなどにより、面接技法の実技指導を行う。学外実習施設での実習は、施設によって対象や内容が異なるが、思春期、青年期、成人期、高齢期のクライアントの心理面接、集団療法、心理検査、心理プログラム等を、指導者による指導のもと、実践および参加することを予定している。センターにおいては、ケース担当教員の指導のもと、幼児および児童のプレイセラピーや心理査定、思春期、青年期、成人期のクライアントの心理面接や心理査定などを行う。実習と並行して、定期的にケースカンファレンスを行い、担当ケースについて発表し、討議に参加する。

4) 臨床心理実習Ⅱ

①意義と目的

学内外の実習施設で担当したケースについて、学外スーパーバイザーおよび指導担当教員により、多面的な観点からスーパービジョンを受け、自己覚知とケースについての理解の深化をめざす。

②展開方法・実習内容

2年次通年科目であり、通年で45時間のスーパービジョンを受ける。学外スーパーバイザーによるスーパービジョンは、個別指導の形態で9時間以上、指導担当教員によるスーパービジョンは個別あるいは集団の指導形態で36時間以上である。